



# ごあいさつ

公益社団法人日本診療放射線技師会

会長 中澤 靖夫

第32回日本診療放射線技師学術大会が9月16日から18日の3日間、長良川国際会議場・岐阜都ホテルにおいて安田鋭介大会長（公益社団法人岐阜県診療放射線技師会会長）の下、中日本地域に所属する各県（診療）放射線技師会の全面的なご協力のおかげで開催できますことを心よりお礼申し上げます。

今大会のテーマは「国民と共にチーム医療を推進しよう」であり、サブテーマは岐阜県診療放射線技師会の総意を表した「がん診療に挑む—私たちはどこまで担えるか—」です。岐阜県の清流長良川の鵜飼いは約1300年の歴史があり、古来、人々に愛された伝統文化です。松尾芭蕉が鵜飼いを見物し「おもしろうて やがてかなしき 鵜舟かな」という句を残し、織田信長は「鵜匠」という地位を与え鵜飼いを保護し、徳川家康は岐阜で作らせた鮎ずしを江戸まで運ばせました。現在では長良川の鵜匠は6人で正式な職名は宮内庁式部職鵜匠といい、代々世襲で技が受け継がれています（岐阜市漫遊から引用）。清流長良川の鵜飼いは静と動の日本文化を表現し、日本独特の美意識を感じることができると思います。本年も全国47都道府県と連携しながら、診療放射線技師の「がん診療に挑む—私たちはどこまで担えるか—」を意識しながら、ワクワクドキドキするすばらしい学術大会となるよう会員の皆さまと協力していきたいと思えます。

厚生労働省連携企画としましては「2025年に向けたがん対策について」「どう防ぐ“転倒・転落事故”」「平成28年度診療報酬改定の検証」「チーム医療の推進と今後の課題」の4演題です。各演題には厚生労働省健康局、厚生労働省医政局総務課、厚生労働省保険局医療課、厚生労働省医政局医事課に基調講演などをお願いしています。招聘講演1としては「The Challenge of Teaching MRI in the Future」と題して、Illinois State University, Associate Professor Dr. Grey Michael Leeの講演、招聘講演2として「The History and Future of the ISRRT」と題して、International Society of Radiographers & Radiological Technologists President Dr. Fozy Peerの講演、International Session 32演題の発表を予定しています。さらに本部企画として

Ai分科会、放射線機器管理士分科会、放射線管理士分科会、放射線療法分科会、読影分科会、検査説明分科会、骨関節撮影分科会、消化管画像分科会、口腔・顎顔面領域撮影分科会、医療画像情報精度管理士分科会、画像等手術支援分科会、医療被ばく安全管理委員会、人材育成委員会（診療放射線技師マネジメント研修班、女性活躍推進班）、医療安全対策委員会、診療報酬政策立案委員会の報告を準備しています。

本会の大きな役割は、国民と協働し、医療者と協働し、質の高いチーム医療を推進することです。医政発0331第2号に「日本診療放射線技師会が実施する研修を受ける必要がある」ことから、平成28年度も引き続き、業務拡大に伴う統一講習会を47都道府県と連携しながら1万人を目標に実施する予定です。新たな業務として、CT・MRI検査等における自動造影剤注入装置を用いた造影剤の投与、検査終了後の抜針・止血、下部消化管検査時のカテーテル挿入と造影剤および空気の注入、核医学診断装置を用いた検査、画像誘導放射線治療における肛門カテーテルの挿入・空気の吸引が加わりました。できるだけ早く講習会を受講され、臨床現場で役立てていただければと思います。

さて、県民の皆さま方を対象とした企画としては、公開フォーラム「がん診療に挑む—私たちはどこまで担えるか—」「進歩しつつける肝臓がんの治療～これからは脂肪肝が怖い！～」「放射線治療ってなに？」「母の訓えと北野大の教育論」を準備していますので、多くの皆さま方に参加を頂き、ご自身の健康管理などに役立てていただきたいと願っています。また日本画像医療システム工業会ならびに関連医療機器メーカー・医薬品メーカーのご協力により、医療機器の展示、医薬品の展示を企画していますので、多くの会員の参加をお願い致します。

最後になりましたが、学術大会の開催に当たり3年間の長きにわたり準備していただきました安田鋭介大会長、増田豊副大会長、小野木満照副大会長、丹羽政美実行委員長、各実行委員の皆さま方に心から感謝を申し上げますとともに、会員の皆さま方のご参加とご協力をお願いする次第です。